モアイは語る――地球の未来 (3)

安田 喜憲

11 私たちの花粉分析の結果から、もう一つの事実も浮かび上がってきた。ヤシの花粉の量は、七世紀頃から、徐々に減少していき、代わってイネ科やタデ科などの草の花粉と炭片が増えてくる。このことは、ヤシの森が消滅していったことを物語っている。人口が増加する中で家屋の材料や日々の薪、それに農耕地を作るために伐採されたのだろう。さらに、モアイの製造が始まると運搬用のころや支柱としても使われるようになり、森がよりいっそう破壊されていったのだと考えられる。

12 ラノ・ララクの石切り場からは、未完成のモアイ像が約二百六十体も発見された。なかには作りかけの二百トン近い巨像もあった。運ぶ途中で放棄されたモアイも残されている。おそらく森が消滅した結果、海岸までモアイを運ぶことができなくなったのであろう。

13 では、モアイを作った文明は、いったいどうなったのだろうか。

14 かつて島が豊かなヤシの森に覆われていた時代には、土地も肥え、バナナやタロイモなどの食料も豊富だった。しかし、森が消滅するとともに、豊かな表層土壌が雨によって侵食され、流失してしまった。火山島はただでさえ岩だらけだ。その島において、表層土壌が流失してしまうと、もう主食のバナナやタロイモを栽培することは困難となる。おまけに木がなくなったため船を造ることもままならなくなり、たんぱく源の魚を捕ることもできなくなった。

（11〜14は教科書本文における形式段落番号を表します）

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文の内容に合うように、次の文の（　　）に当てはまる言葉を本文中から十二字で探し、最初と最後の三字を答えなさい。

ヤシの花粉の量が七世紀頃から徐々に減少していることから、その頃、徐々に（　　）ことがわかる。

［　　　］〜［　　　］

(2) ――線部「ヤシの花粉の量は、……炭片が増えてくる」とあるが、ここから考えられることとして、適当なものを二つ選びなさい。

ア ヤシの花粉が減り、イネ科などの草の花粉が増えていることから、モアイの運搬には草が使われていたのだと考えられる。

イ ヤシの花粉が減り、イネ科などの草の花粉が増えていることから、農耕地を作るためにヤシが伐採されたのだと考えられる。

ウ ヤシの花粉が減り、炭片が増えていることから、栽培にたずさわる人口が減少していったのだと考えられる。

エ ヤシの花粉が減り、炭片が増えていることから、薪にするためにヤシが伐採されたのだと考えられる。

［　　・　　］

(3) 次の文章はイースター島に起こった変化をまとめたものである。（　　）に当てはまる言葉をそれぞれ選びなさい。

森が消滅したことで、（①）が雨で流され、（②）を栽培することが難しくなった。また、木がないために（③）を造ることができず、（④）を捕ることもできなくなった。

ア たんぱく源の魚　**イ** 主食の作物　**ウ** 船　**エ** 表層土壌

①［　　］　②［　　］　③［　　］　④［　　］